

THE VINTAGE SCORE

伝承

CARRY ON WAYWARD SON

カンサス

KANSAS

WORDS & MUSIC BY KERRY LIVGREN

華麗で刺激的なアメリカン・プログレ

土臭さを持つアメリカン・プログレ

文◆増田隆宣

現在カンサスというバンドのルーツを語れる人は一体どれ位いるだろうか？ 実をいうと僕にしても、カンサスの音楽にドップリ漬かってきたクチではないのだが、今の若い人達の中には、ハード・ロック・バンドだと思っている人がいるらしい。確かにロックには違いないが、残念ながら僕はそんな人達よりちょっとだけ長く生きているので、サザン・ロックもプログレもほぼリアルタイムで経てきた。だから、近年のスマッシュ・ヒット・アルバムである『パワー』を聴いた時は、「これはあのカンサスではないっ！」と嘆いてしまったが、次の瞬間には「ステイヴ・モーズのギターってカッコエーなあ」と思った自分の若さがちょっと嬉しかったりもしたのだった。つまり何が言いたいのかというと、カンサスはもともとアメリカ南部出身のプログレ・バンドなのである。今でこそこの国の人間がどんな音楽を演ろうと思惑はないが、しかし妙ちきりんな組み合わせではある。大別すればアメリカン・ロック、厳密に言えばアメリカン・プログレッシブ・ハード・ロックと呼ばれる（呼ばれた？）部類のバンドであったわけだ。

アメリカン・プログレ、ときたら真っ先に思い浮かぶのが、ボストン、ジャーニー、スティクス、フォリナー（これはプログレにすると怒られそうだが）、そして初期のTOTOなどであろうが、カンサスはそういった一連の中に名を連ねていたものの、これらの中では別と影が薄かったのも事実である。それは決して音楽的に劣っていたわけではなく、総合的な評価からして、バンド全体及びメンバー個々のアーティスト・パワーが他のバンドと比べて少し弱かったのかも知れない。とは言っても、今回取り上げた『永遠の序曲』というアルバムなどは、当時で300万枚を超えるセールスを記録していて、ビッグ・アーティストには違いない。しかし、しかし、ボストンは同年、デビュー・アルバムを何と800万枚売り飛ばしたのだ。そのうちの1枚は僕が買ったのだが、そんなことはこの際どうでもよい。とにかく、カンサスとは土臭いながらもプログレ独自のスケール感をもつアメリカン・

ロック・バンドであったのだ。

では、簡単にカンサスの経緯について紹介しておこう。その名の通りカンサス州で結成され、74年にデビューした。当時のオリジナル・メンバーは、ステイヴ・ウォルシュ(vo, k), リチャード・ウィリアムス(g), フィル・イハート(d), ケリー・リヴグレン(g, k), ロビー・スタインハート(vo, vn), デイヴ・ホープ(b)の6人で、80年にバンドの核であったステイヴ・ウォルシュが脱退するまでに、ライブ盤を含めて8枚ものアルバムを世に送り出した。その後もベスト盤を含む3枚のアルバムを出したがあまりバツとせず、一時は活動を停止したため解散の噂も聴かれたが、86年オリジナル・メンバーであるリチャード、フィルの2人に加えて新たにビリー・グリアー(b), そしてセッション・ギタリストとして名高いステイヴ・モーズ(g)が加入、更には往年のカンサスを担っていたステイヴが新生カンサスに復帰し、アルバム『パワー』を完成させた。ステイヴのスリリングなギターを前面に打ち出したサウンドは、ギタリストならずとも圧倒されてしまう。88年には、更に完成度を高めた最新作を出している。確かに新しくなったカンサスには、現代にマッチしたキャッチー性、ハードさがあり、それはそれで評価に値するが、やはり70年代に感じられたカンサス独自の種のある種のこだわりを捨ててしまったように思うのは、僕だけではないはずだ。第一、もう土の匂いが全く感じられないし、今回取り上げた曲『伝承』にも見られるような、プログレ・タッチの展開が、今のカンサスにはほとんどと言っていいほど聴くことができないのは寂しい限りである。やはりキーボーディストには4、5枚目あたりの作品を聴いてもらいたいが、今聴いてみると、特にハモンドの音が非常に心地良いことに気づくであろう。現代のCDではなかなか聴くことのできないサウンドだ。ただプリティッシュ・ハモンドを聴いて育った僕としては、「いかにもB3です」という高次倍音を多く含んだハモンドより、歪んだC3の音の方が趣味なのだが、それならやはりUKを聴くしかないか……。



『永遠の序曲』CBS・ソニー C5C56038

- ① 伝承
- ② 壁
- ③ 深層心理
- ④ 奇跡
- ⑤ 挿入曲
- ⑥ 少年時代の謎
- ⑦ 熱視線
- ⑧ 超大作

- a. ファーザー・パティラと完全なるプロの対面
- b. 月に映える
- c. 船から落ちた男
- d. メカニック総出演
- e. ヒーローを自由に
- f. プロの襲撃



『永遠の序曲』(76年)



CS 26AP-311

カンサスの名を全世界に知らしめた、記念すべき4作目。聴きどころは、今回取り上げた『伝承』におけるキャッチーかつドラマティックな構成美と、ラスト曲『超大作』の6部構成からなる8分を超える文字通りの超大作である。300万枚セールスを記録。

『暗黒への復讐』(77年)



CS 26AP-789

400万枚という、前作以上のセールスを出した記録的アルバム。ロビー・スタインハートのバイオリンもフィーチャーされているが、前作よりも若干ポップさが感じられる。全体的にカンサス・スタイルが上手くまとまっている代表作。

『ベスト・オブ・カンサス』(84年)



CS 32DP-178

セカンド・アルバム『ソング・フォー・アメリカ』から8枚目『ビニール・コンフェッション』までの作品中より代表作をセレクトしたベスト・アルバム。前期のカンサスを知るには最適な1枚である。幕の内的に楽しめる。なお、未発表曲も含む。

『パワー』(86年)



WP 2092-2426

大幅なメンバー・チェンジを経てパワー・アップした新生カンサスの会心作(通算12枚目)。ステイヴ・モーズ(g)というスター・プレイヤーの参加により、インパクトの強いサウンドに仕上がっている。ロンドン・フィルの導入も聴きもの。

ニュー・オリンズ系のピアノ・ソロをかつこよく!

採譜/解説: 三宅一徳

カンサスといえば、ひげ親父たちのメリケン・プログレ・バンドという先入観からか、そのサウンドとは関係のないところでなぜか大味なイメージがあって、ヨーロッパ系のプログレ・バンドにみられる繊細さが欠けていると思込んでいた節が僕にはあった。ロビー・スタインハートとUKのエディ・ジョブソンを比べて、"やっぱ、バイオリン弾きは神経質な顔立ちじゃなきゃ! 牛追いのフィドル弾きがプログレなんてできるわけねえよなあ"とか言ってたわけだ。もっともスタインハート(Steinhardt)ってドイツ系っぽい名前だけども……。

まあ、いわゆる聴かず嫌いだったわけだが、今改めて聴いてみると、プログレ独特の構成美や音世界と、当時のブリティッシュ・ロック系にはない健康的なサウンドが同居している様が、やけに心地良かったりもするのである。もっともそれはその後(衰退後)のプログレ・バンドが復活を図った時にとった方法論でもあり、ある意味では現在の商業的プログレ・シーンの中核をなしているとするいえるのだ。イエスに影響を受けたであろう彼らが、新生イエスに影響を与えたということも考えられ、そういった意味では実は非常に興味深いバンドである。

今回取り上げた「伝承」は、1976年の『永遠の序曲』というアルバムの冒頭に収められた曲で、アメリカ色の強いカラッとしたコーラスが印象的な曲だ。サビ部分のコーラスをア・カペラにしたイントロに続いて導入されるヘビーなリフ部分は、シンコペートされたアクセントを意識的に避けた Hammond・オルガンが特徴的だ。また、この部分は3小節構造になっている点も見逃せない。リフ

はその後、シャッフルになり(移り変わりは決してスマートとはいえないが)スピード感に変化が与えられていて、全体としてはカラフルな導入部に仕上がっている。歌部分部分はシンプルに始めて徐々に盛り上げていく常套パターン。伴奏の音域の使い分けがサウンドの変化をうまく演出している。Hのサビに向かってサウンドに重みを加えていくわけだ。2コーラスの後、[K]~[L]において新しいパターンのリフの上にソロが繰り広げられるが、そこへ勢い良く突入するために[K]直前の小節が、4/4拍子から2/4拍子に変更されている。これは比較的自然な拍子変化なので、違和感なく受け入れることができ、あまり緊張感を伴わない変拍子の使い方といえるだろう。リフとしては、コード部分にもう1つ新しいものが現われる([E]部分)。転調していることもあって、さらに発展していくような印象を受けるが、このまま終わってしまう結末には意表をつかれる。この曲が歌ものであることを考えあわせても、歌パートがきりのよい終わりをしていることもあって、独特なエンディングを持つ曲と考えられる。

この曲を演奏するにあたって、必要なキーボードはアコースティック・ピアノとオルガン(できれば Hammond系)だ。[E]直前やエンディングで聴かれるハイパス・フィルターをかけたような不思議な音は、Hammond・オルガンのドローバーを低次倍音からカットしていくことによって得られる効果。アナクロ・ハイパス・フィルター奏法とでも名づけてしまおう。[L]でのソロは短いながらも気合の入った好ソロ。ニュー・オリンズ系のピアノ的な手癖が感じられるが、パーカッションでかつこ良いソロだと思う。



ギターはこの通り再現しようとするれば、3人必要になるが、ソロが入る部分のリフを1人にして2人でまかなうのが現実的だ。キーボードにもリフを分担させて、ギター1人で演ずることも可能だろう。[E]等ではアコースティック・ギターも使われているが、エレキで代用可。[E]の繰り返し時のソロは都合によりカットしてある。いずれにしても、結構ギター弾きにはおいしい曲だと思う。

ベースはピック弾きでタイトに。硬めの音質による安定したブレイが印象的だ。

ドラムはプログレ・ハード・ロック系というよりは、サザン・ロック系といった色合いのブレイ。スネアも軽めのチューニングになっている。プログレを感じさせるのは、譜面では省略した[O]の繰り返し時の3連符ぐらいかな? しかしリラックスしたブレイがなかなか良い。

VOICE DATA

データ作成/解説: 沢 彰記

ソロの部分で、ハードなギター・ソロと絡んでくるオルガンのサウンドだ。やはりロックには、ハードなギターのサウンドとオルガンのサウンドが似合うようだ。演奏する時には、まずスピード感に気をつけるのが、オルガンのポイントだ。特にリズムで押しているような場合は、リズムがもたらないように気をつけること。

◆ KANSAS A. PIANO for DX7

ALGORITHM: 11				TRANPOSE: C2				F.B. LEVEL: 5				OSC KEY SYNC: ON			
PITCH ENVELOPE								LFO							
PR1	PR2	PR3	PR4	PL1	PL2	PL3	PL4	WAVE	SPD	DLY	PND	AMD	SYNC	PMS	
99	99	99	99	50	50	50	50	TRI	35	0	0	0	ON	3	

#	ALG	OSC		ENVELOPE								KBD SCALE				V	M	OL		
		M	FREQ. D	R1	R2	R3	R4	L1	L2	L3	L4	LD	LC	BP	RD				RC	R
6	4	R	1.00-6	85	24	99	48	99	0	0	0	14	-L	B3	0	-L	4	0	0	73
5	4	R	14.00-7	81	21	99	50	30	29	0	0	39	+L	A1	78	-L	6	2	0	68
4	C	R	1.00-4	82	28	21	48	99	90	0	0	0	-L	A1	0	-L	5	2	0	92
3	2	R	3.00-0	82	1	2	14	99	46	10	0	17	+L	F#1	65	-E	7	2	0	74
2	1	R	1.00-6	87	12	25	0	99	75	0	0	0	-L	A1	12	-L	7	0	0	87
1	C	R	1.00+3	80	30	21	50	99	78	0	0	0	-L	A1	0	-L	3	2	0	99

▲オルガンと共に、メインとなっているアコースティック・ピアノのサウンドだ。DX7で作るのは今では珍しいものだが、実際にスタジオなどで使ってたところ、なかなか評判の良かったものである。曲中では、主にバックアップで使われているので、PCM音源でなくとも、結構リアルに聴こえるはずだ。

◆ KANSAS ORGAN for K1

VOICE: 100		SOURCES: 4		VOICE NAME: ORGAN			
COMMON	VIBRATO	8	AUTO BEND	0	PRS-FREQ	0	
	DEPTH	55	DEPTH	0	PITCH BEND	0	
	SPEED	TRI	VEL-DEPTH	0	KS CURVE	1	
	SHAPE	0	KS-TIME	0	POLY MODE	PL1	
	PRS-DEPTH	DEP					
SW	PARAMETER			S1	S2	S3	S4
FREQ	FREQ	COARSE (FIXED KEY)		0	0	0	0
	FREQ MOD	FINE	2	ON	ON	ON	ON
		KEY TRACK	0	ON	OFF	ON	ON
		VIB/A BEND	ON	ON	ON	ON	ON
		PRS-FREQ	ON	ON	ON	ON	ON
WAVE	WAVE	WAVE SELECT	72	72	6	6	
	AM	AM S1.S2	OFF	OFF			
ENV	ENVELOPE	LEVEL	44	44	70	70	
		DELAY	0	0	0	0	
		ATTACK	5	8	6	7	
		DECAY	30	30	34	34	
		SUSTAIN	100	100	61	60	
	VEL CURVE	RELEASE	23	21	23	23	
		VELOCITY CURVE	1	1	1	1	
		VEL-ENV	0	0	0	0	
		LEVEL	0	0	0	0	
		PRS-ENV LEVEL	0	0	0	0	
TIME MOD	TIME MOD	KS-ENV LEVEL	0	0	-29	-29	
		VEL-ENV TIME	0	0	0	0	
		KS-ENV TIME	0	0	0	0	

[A]

Vocal (Chorus) Lead Guitar -

Ca-rry on my wa - y - ward so - - n there'll be peace when you — are do-ne Lay your weary he -

1. Right Guitar

2. Left

Keyboard

Bass

Drums

[B] Am 1× Long rest C 2× only

ad to re - - st Don't you cry no - more

Organ

G D Am C D Em G D Vib

1. *Em*

2. *Am* *G* *FΔ7 Vocal* *port.* *D* *Am* *Em(onG)* *F* *Em(onG)*

Once I rose a - bove the noise and con - fu - sion
Mas quera ding as a man with a rea - son

Ac. Guitar 1×tacet
col Chord

Organ →

8va (1×only)

Ac. Pf.

8va/bassa (2×only)

2×only

Am *Em(onG)* *F* *G (2×)* *Dm* *C* *Bb* *C* *Dm* *C* *G* *Em*

Just to get a glimpse be - yond this i - llu - sion I was soa - ring e - ver high - er but I flew too high
My cha - rade is the e - vent of the sea - son and if I claim to be a wise man it sure ly means I don't know

E Am Fm(onG) FΔ7 Em(onG) Am Em(onG) FΔ7 Em(onG) Dm C
 Though my eyes could see I still was a blind man— Though my mind could think I still was a mad man I hear the— voices when I'm
 On a stor my sea of mo - ving e - mo - tion— Tossed a - bout I'm like a ship on the o - cean I set a course for winds of

Ac. Guitar

Bb C Dm C G F Am C G F
 drea - min' I can hear them say Ca - rry on my wa - y - ward so - - - n
 for - tune but I hear the voices say

—(Sra)—

Am C G Am C G F Φ
 there'll be peace when you — are do - ne Lay your wea - ry he - ad to re - - - st Don't you cry no -

J Em
Lead Guitar 2×only →

Chorus

loco

triss.

K Am

Organ

L Am G F G Am G F G Dm C

Ca - rry on you will al - ways re - mem - ber Ca - rry on no - thing e - quals the splendor Now your life's no lon - ger

G Am

more

Organ

2.

Don't you cry no - more No!

Am

Am

1x only

B $\flat$ Dm C G

em - pty Surely heaven waits for you

F Δ 7

D.S.

M Em

gliss.

N F#m Lead Guitar A E

Sheet music for a song, featuring vocal lines and instrumental accompaniment (Ac. Pf., Organ). The music is in 4/4 time and includes various chords and melodic lines. The first system shows the vocal line with lyrics "1. F#m A E" and the instrumental accompaniment. The second system shows the vocal line with lyrics "2. Am G F#7" and the instrumental accompaniment. The third system shows the vocal line with lyrics "Ac. Pf." and the instrumental accompaniment.

Music School & Studio

あけて下さい。音楽生活への扉。

ミュージックスクール生徒募集中!

KEYBOARD 中村建治
SAX 高見延彦
SAX 酒井昌彦
TRUMPET 唐口一之
E.GUITAR 篠本 裕
VOCAL 小東千鶴

PIANO 橋本有津子
DRUMS 吉田 匡
DRUMS 山下政人
E.BASS 原 満
W.BASS 中村新太郎

●入会金: 20,000円
●レッスン料: 10,000円~

16tr.
レコーディング

10時間パック
¥80,000

★くわしくは
お問い合わせください。

PAレンタル
やっています!

練習スタジオ Aスタジオ
Bスタジオとも
2時間¥3,500~

★オールナイトOK
★入会金: ¥2,000(グループ)

SOUND SPACE
CASBA
A Division of CASBA Co., Ltd.

サウンドスペースキャスバ

☎06-211-7376 FAX.06-211-3625

〒542 大阪市中央区瓦屋町3-7-1

★地下鉄日本橋駅/谷町九丁目駅より徒歩7分